第278号　2023（令和５）年９月30日　発行

カトリック新潟教区報

編集・発行　カトリック新潟教区広報委員会
〒951-8106　新潟市中央区東大畑通1-656
TEL 025-222-7457　　FAX 025-222-7467
https://www.catholic-niigata.net/

ワールド・ユース・デー開催

新潟教区司教　パウロ　成井大介

７月26日から８月９日の日程で、ポルトガルのリスボンでワールド・ユース・デー（ＷＹＤ）が開催され、これに参加してきました。日本からは、公式巡礼団が１００名強、修道会、在俗会などの個別のグループが１００名ほどで、合計２００名ほどの青年、修道者、助祭、司祭、司教が参加したと伺っています。新潟教区から参加したのはわたしひとりでしたが、新潟教区出身で、他のグループから参加した青年が若干名おられました。

７月27日から31日まで、公式巡礼団はポルトガル中部の町、コインブラで地域の信徒の皆様の家庭にホームステイさせていただき、教区の人々と、世界から本大会を前に集まってきた青年との交わりの時を過ごしました。その後、リスボンに移動し、青年主導でカテケージスを行ったり、教皇とともに祈りの集いやミサを捧げました。教皇との祈りの集いにはなんと１５０万人が集まったと報道されています！

多国籍の日本巡礼団

たくさんの素晴らしい経験をしましたが、一つ強く印象に残っているのは、海外出身の日本からの参加者が多かったという事です。留学生、仕事をしている人、日本人と結婚し夫婦で参加している人、両親が外国人で、日本で生まれた人など、実に様々ですが日本の教会、特に青年信徒の実情を表していると思います。いや、実情はもっと海外出身者が多いと思いますが、それが多少なりとも表れていたのだと思います。日本からの巡礼団は、「日本人グループ」ではなく、「日本からの信者グループ」でした。他の国からの巡礼団を見てもこれは実に普通のことで、新潟教区においても、国籍ではなく、洗礼を受けた人々の地域共同体としてともに歩んでいきたいと思いを強くしました。

©カトリック中央協議会

自由な信仰

もう一つ、魂を揺さぶられるような経験だったのは、分かち合いです。参加した青年の中には、ＷＹＤをずっと楽しみにしていた人もいれば、成り行きで参加した人もいます。しかし、教皇が歓迎式典で「教会には、すべての人のために場所があるのです。みんな、みんなです！」と繰り返したように、誰もが教会に招かれていて、誰にとっても教会は自分の居場所なのです。ＷＹＤはまさにそれが形になったような集いで、参加者それぞれの、教会に対する熱い思い、うんざりした思い、希望、疑問、何でも素直に分かち合える雰囲気がそこにはありました。これは本当に素晴らしいことで、日本でもそのような場を作っていけたらと考えています。

秋田水害報告

秋田大雨災害救援活動に関するご協力への感謝

新潟教区司教　パウロ　成井大介

7月15日に秋田を襲った大雨により、8月29日現在の秋田県の報告によると、県内で8000件を超える住家が被害を受けました。そのうち7000弱が秋田市内の住家で、信徒宅も数件被害を受けました。また、聖体奉仕会の修道院から200メートルほど離れたところにある斜面が崩れ、複数の民家が土砂に飲み込まれました。このような状況にあって、秋田市内にある秋田教会、土崎教会の司祭、修道者、信徒有志はいち早くチームを作って被害を受けた信徒宅の復旧作業を行い、また秋田市社会福祉協議会のボランティアセンター経由で一般の被災宅の復旧作業に取り組んでいます。

©聖霊女子短期大学付属高等学校

カトリック関係で特に大きな被害を受けたのが、秋田市にある聖霊修道院、聖霊高校、聖霊幼稚園です。

ひどいところでは床上60センチ以上の浸水となり、1階の設備は軒並み被害を受けました。新潟教区では、カトリック中央協議会の緊急対応サポートチーム（ERST）の全面的な支援をいただき、教区カリタス委員会が秋田市の聖体奉仕会の敷地内にある建物を借りて「カリタスもみぐらベース」を7月27日に立ち上げ、これまで教区内外から多くのボランティアの皆様に主に聖霊高校、幼稚園のため、また社協ボランティアセンター経由で幅広く被災された方々の支援のため活動していただきました。特に夏休みという事もあり、学校単位で来て下さった高校生ボランティアの皆様には、聖霊高校生とともに行う作業を通して、助け合いの精神や勇気を与えて下さったと思います。心より感謝いたします。

また、7月21日付けの手紙で教区内に向けてお願い致しました災害救援募金ですが、こちらも8月31日をもって受け付けを終了いたしました。教区内はもとより、教区外からも多くの皆様から募金をいただきました。被災された信徒やカトリック施設への義援金、また救援活動一般のためなどに使わせていただきます。心より感謝申し上げます。募金については改めて報告させていただきます。

最後に、秋田での復旧にはまだまだ時間がかかります。引き続き、皆様の祈りの中で秋田の人々を思い出していただけたら幸いです。いつくしみ深い神が皆様の上に豊かな祝福を与えて下さいますよう、感謝のうちにお祈り申し上げます。

教皇　大阪大司教区と高松教区の統合を発表

教皇フランシスコは、ローマ時間８月15日、12時、大阪大司教区と高松教区を統合し、新たに大阪高松大司教区を設立、その初代大司教として、前田万葉枢機卿を任命することを発表されました。

大阪大司教区は大阪、兵庫、和歌山の３府県、高松教区は徳島、香川、愛媛、高知の四国４県を管轄していた。

祝 司祭叙階 60周年・25周年 おめでとうございます

新潟教区では、今年３人の神父様がダイヤモンド祝及び銀祝を迎えられました。

カテドラル新潟教会にて

ダイヤモンド祝
　町田　正神父様（寺尾教会主任）
司祭叙階日　1963・3・24

銀　祝
　アンジェイ・レヴィツキ神父様（大舘・鹿角教会主任）
司祭叙階日　1998・4・25

銀　祝
　ラウール・バラデス神父様（新潟教会主任）
司祭叙階日　1998・5・17

既に、各教会においては祝賀行事なども行われており、新潟教区においても7月10日カテドラル新潟教会にて、成井司教様と司祭12名の共同司式のもと、お祝いのミサと食事会が行われ、町田神父様、ラウール神父様より喜びにあふれるご挨拶がありました。

この記念日を迎えられたことにあたり、一言ご寄稿いただきましたので皆様と分かち合えれば幸いです。

「イエズス様も」（態度価値の実現に）

使徒ヨハネ　町田　正

聖務としてとなえている「教会の祈り」に詩編が大きな場を閉めている。

聖ピオ10世教皇は、教父たちの言葉を引用しながら、「詩編は鏡のようで、となえる人は自分自身の心の動きをその中に見て、詩編を歌う」と述べ、「どのような言葉で正しく神を讃えることが出来るか教えられる」に続いて、「贖い主キリストの似姿が詩編の中で注意深く素描されているのを見て、愛するように駆り立てられない人がいるだろうか」と誌している。

この祈りは、「となえる人自身の心の動きによる祈り」よりも、「人類を救うために来られた方の父なる神への祈り」と思われてくる。

神の御子が人となられた。「罪を除くほかは私達と同じ人間」。時と事柄に応じて浮かぶ私達と同じ思いや感情を、キリストも同じようにお持ちになった。

イエズスは、ご自分の言行の全ては、自分を派遣された父である神のご意志、「世の救いと御父ご自身のみ名の光栄」を全面的に果たすことと言われた。その頂点は「過ぎ越」であった。

公生活の半ば、ペトロに首位権を約束した後、エルザレムでの受難・死・復活を予告された。主を諌めたペトロにイエズスは厳しい言葉を掛ける。ペトロに言われたと言うよりも、その言葉に傾きかけぬようご自分を、御父のご意志に向かわせる為に、ご自身に言われた言葉だったのではないか。ゲッセマニの園でも率直にご自分はこれを避けたいといわれた。でもご自分の意志は、世の救いと御父のみ名の光栄のため派遣されたみ旨の実践であった。

大司祭、律法学士、ファリザイ派の人達の管下にあり、無視され、神である事さえ否定され、共に生きることを拒否され、裁判の時、おまえの生殺与奪の権を持っているのだとピラトに言われる。イエズスは、そのような状況を、御父と全ての人の為に、み旨として受けた。そのイエズスの姿が自分の心に湧いてくるのを覚える。そして日頃、自分の意に添わない事があるとき「人を赦せ」と言われたキリストのお言葉ではなく、「ああ、イエズス様もこの経験をなさった」と言う考えが湧き、心に直ちに平安をいただく。

31才で司祭叙階、それから60年。もうこの年齢になった。本人の意識の上ではその時と同じ思いで事に当たっているつもりであるが、高齢化による活動性、持続力、記憶力など狭くなっている事に気付く。

この時期に思い起こすことは、ヴィクトール・フランクルが、可能性が狭くなっている人がどのような態度をとるかと言うことの中で、新たな独自な価値領域が開かれるとして、「態度価値」と呼ばれる領域について語っている事である。

結論は、イエズスが十字架に釘付けられ、身動き出来ないその時、33年間の生涯の内、一番の業、態度価値によって、神のみ旨を完全に果たすことによって、贖いの業を成し遂げられた事である。

役職が次第に離れていく時、今までよりも更に大切な業に招かれていることを忘れないように心がけたい。

叙階式の願い

ラウール・バラデス

時が経つのはとても早いものです。私が１９８８年5月17日にヨセフ深堀敏司教様から叙階されたのがまるで昨日のことのようです。叙階式の祝賀会のときに深堀司教様は新しく叙階された7人の新司祭の、それぞれの任務を発表されました。私たちは、それぞれがどこに派遣されるかは、予め何も知らされていませんでした。しかし何故か、発表の時、ニコニコと優しく微笑む新潟の佐藤司教様の隣に私は立っていました。

深堀司教様が私の名前を言った後に「新潟教区、長岡の福住教会へ」と告げられると、佐藤司教様は私の方を向き、満面の笑みを浮かべながらこのように言ってくださいました。「叙階式の間、私はあなたたちに接手したかったのですが、典礼上それは許されていないことで、とても悔しい思いをしました。それでも、新潟教区はあなたの故郷、あなたの教区になることを願っています。ようこそ新潟へ。」

こうして新しい家族との関わりが始まりました。その年の7月に、新潟に到着するや否や、佐藤司教様は私をご自分の車に乗せて、自らわざわざ長岡まで連れて行ってくださいました。そのとき、田んぼは爽やかな緑で美しかったのを鮮明に覚えています。

長岡の福住教会で、私の小教区生活の最初の2年半を過ごしました。メキシコ育ちの私にとって新潟の雪と寒さは初めての体験でしたが、土曜学校やボーイスカウトの夏合宿

は、厳しい冬を補って余りあるほど楽しいものでした。ブルーノ神父様は、いつも明るくユーモアがあり、教会に仕えることの喜びを見せてくださるとともに、時に厳しく叱ってくださる兄のように私を迎えてくださいました。

それから数ヶ月後、寺尾教会に異動させられました。鎌田神父様が主任司祭、私が助任でした。毎週、鎌田神父様は寺尾教会の幼稚園に来られる際に、当然私は教会のことを報告していたのですが、基本的に鎌田神父様はすべてを任せてくださっていました。当時の私にとって、小教区がどのようなものかを学び、信者の皆様の信仰生活をより身近に分かち合うことのできるかけがえのない時間でした。

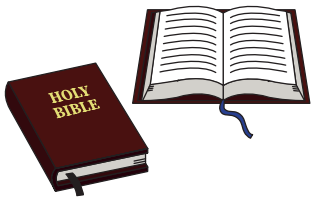
寺尾教会の後、大瀧神父様の助任として5年間、新潟教会が私を迎えてくださいました。この間、とても良い関係を築けたことを神様に感謝します。小教区の組織と、信徒お一人お一人の喜びや悲しみを身近に感じることができる貴重な時間でした。私はミサのために、月に1回新津教会に行きましたが、鎌田神父様は加茂の共同体とゆっくりとミサを捧げておられました。

新潟教会での5年間の後、菊地司教様は私を主任司祭として青山教会に派遣してくださいました。小教区が任せられるのは初めてでしたから、不安もありました。引っ越しの前に、青山教会の委員会の方々が新潟まで来られて、最初の打ち合わせをしてくださいました。そのとき私は、何を話せばいいのか、何を話してはいけないのかが分からずにおどおどしていました。そのとき、委員会の婦人の一人が「神父さん、大丈夫よ、青山では司祭をよく教育しているから」と言ってくださいました。まさに、その通りでした。家庭的な環境の中で、常に学び続けることができた7年間でした。青山教会の皆さんには今も、本当に感謝しています。

そして8年前、私は主任司祭として再び新潟教会に派遣されました。15年前に比べると、教会の周りや小教区の状況が変わり、ともに年を重ねてきたのをひしひし感じました。しかしながら、変わらないものもありました。それは、神のみことばと、キリストがもたらす癒しと救いです。キリストの愛から流れる奉仕の精神、そして目立つことなく黙々と信仰に生きることこそ、永遠に変わらないものだと言えると思います。

25年前、佐藤司教様が願われたように、確かに、新潟は私の故郷となり、ここを自らの教区と感じている私がいるのです。それはひとえに、皆様お一人お一人がこの至らぬ者である私を暖かく迎え、成長させ、支えてくださったからだと、心からそのように感じています。

皆様、この25年間、本当にありがとうございました。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。



司祭叙階銀祝にあたって

アンジェイ・レヴィッキ（神言修道会）

神様の恵みと多くの人の祈りに支えられて、司祭叙階25周年を迎えて、感謝しています。

25年前に30歳でポーランドの神言修道会の神学院で司祭叙階の恵みをいただきました。

神様の導きによって、神言会の宣教師として、日本に派遣されました。日本では名古屋・長崎・福岡と新潟教区で奉仕させていただきました。小教区だけではなく、小学校や幼稚園などの多くの人にお世話になりました。新潟教区に派遣されて、5年目になりますが、秋田地区の大館教会と鹿角教会と保育施設で奉仕しています。子供たちをはじめ、皆様に多くのことを教えていただいて、今まで宣教師と司祭の道を歩み続けることができました。感謝の心をこめて、25年間にお世話になった多くの人の上に、神様の祝福と恵みを祈っています。新潟教区の皆様、これからもよろしくお願いいたします。

大舘教会の聖堂でのミサ後の写真
（前列右から２番目）

東京大司教区に補佐司教任命

教皇フランシスコは、ローマ時刻9月16日正午（日本時刻同日19時）、ミラノ外国宣教会のアンドレア・レンボ師を、東京大司教区の補佐司教に任命すると発表しました。司教叙階式の日取りは、追って発表されます。

東京大司教区に補佐司教が誕生するのは、幸田和生司教（２００５年２月就任）が、２０１８年６月に引退して以来５年ぶりとなります。

略歴

１９７４年５月23日
イタリア共和国ロンバルディア州ベルガモ県トレヴィーリオに生まれる

１９７４年６月７日　助祭叙階

２００４年６月12日　司祭叙階

２００９年４月　来日

２０１１年４月～２０１２年３月
板橋教会助任司祭

２０１２年４月～２０１７年３月
習志野教会助任司祭

２０１４年４月～２０２１年２月
一般社団法人船橋学習センター「ガリラヤ」副理事長

２０１７年４月～２０２３年３月
府中教会主任司祭

２０１７年５月
カトリック・ミラノ外国宣教会管区長

２０２１年２月
一般社団法人船橋学習センター「ガリラヤ」理事長

２０２１年６月
公益財団法人真生会館理事長

ひとりで悩まず
わたしたちにご相談ください

カトリック新潟教区
セクシャル・ハラスメント相談窓口

司祭・修道者による未成年者性虐待と
セクシャル・ハラスメントについての
窓口です

TEL 080－8912－8758
受付 毎週火曜日　13：00～14：00
（除く祝祭日）

連載

平和を実現する人々の幸い

至福への道　第５回（最終回）「中心への旅…祈りと瞑想による」

「まことにあなたは御自分を隠される神　イスラエルの神よ、あなたは救いを与えられる、と」（イザヤ45・15）

「平和を実現する人々の幸い」という表題のもとで始めた連載も、「至福への道」、「神に従う者の平和」を終え、今号は三つ目のテーマである「心・魂とは」の予定でした。

このテーマについて準備をはじめたところ、「魂」についてはすでに「至福への道・第２回」（教区報274号）において、また、その後に予定していた「神の恵みに活かされて生きる霊性」、「神の永遠のいのちを見つめる観照」は、それぞれ275号と276号に、そのエッセンスを詳述しています。

そこで今号では、まだ手が付けられていない「祈りと瞑想の梯子」を、「中心への旅…祈りと瞑想による」と改め、旧約聖書の中で最も美しい箇所の一つとされている、預言者エリヤのホレブ山の洞穴での体験から、そのエッセンスを拾い集めます。

エリヤはサマリアを首都する北イスラエル王国の、アハブ王とアハズヤ王の治世（紀元前874年～852年）に活躍した預言者です。アハブは妻イゼベルによってイスラエルにバアル崇拝を持ち込んだ王で、バアルとは当時のカナン地方にあった土着宗教の神で、大地に雨を降らせ穀物を生み出して豊かさをもたらす、豊穣の神として信仰されていました。

しかしバアルは偶像であり、人間が想念の力をもって自分の意識の中に神のイメージを作り出し、それを形にして礼拝し信じることです。

神はイスラエルに十戒を与え、その第一で、「わたしは主であり、あなたの神、あなたをエジプトから導き出した神。あなたはわたしをおいて他に神があってはならない」。第二で、「あなたはいかなる像もつくってはならない。いかなるものの形もつくってはならない」と教えられましたが、目指していたのは、「神は霊であり真理であり、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない」、「真理はあなたを自由にする」という、主イエスの教えだったのです。

そのアハブのもとに、「わが神はヤーウェ」という名前の「エリ・ヤ」が遣わされます。エリヤは「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。わたしが告げるまで、数年の間、露も降りず雨もふらないであろう」と告げます。雨と穀物をもたらすのはバアルであるとする、アハブに対する挑戦状です。（列王記上17章～19章参照）

やがてエリヤは、カルメル山上でバアルの偽預言者団と対決し、神である主が真の神であることを示して大きな勝利をあげます。しかし、イゼベルに命を狙われて恐れ逃げ出し、ベエル・シェバに来て荒野に入り、自分の命が絶えることを願います。

「主よ、もう十分です。わたしの命をとってください。わたしは先祖にまさる者ではありません」…。彼はそのまま横になり寝入ります。死への恐怖から逃げ出してしまった自分を、悔いくずおれながら、認め受け入れた瞬間です。

十字架上のイエスを見捨てて逃げ出した使徒たちもそうでした。エリヤはその後、40日40夜歩き続けて神の山ホレブに着き、そこにあった洞穴に入り夜を過ごすのです。

「見よ、そのとき」、です。主の言葉があり、主はエリヤに、非常に激しい風、地震、火を見せますが、「それらの中には主はおられなかった」、「火の後に静かにささやく声が聞こえた。それを聞くと、エリヤは外套で顔を覆い、出てきて洞穴の入口に立った」と列王記は記しています。

「静かにささやく声」とは、「コル デママー ダッカー」というヘブライ語で、「コル」は「声」、「デママー」は「穏やかな、静かな、すんだ、沈黙」、「ダッカー」は「小さな」、という意味。

英語訳で一番権威があるとされているエルサレム訳聖書では、この箇所を「Sound of gentle breeze」（おだやかなそよ風の音）と訳し、「霊である神は、穏やかな声をもって親しく預言者たちに語りかける」と注釈しています。

エリヤはハート（心臓・心、感情）の中心に、それが神である主のみ声だと一瞬にして悟ることができるような「静かにささやく声」を聞きます。それを聞くと、エリヤは洞穴から出てきてその入口に立ち、再び神である主から使命を授かり、ダマスコの荒れ地へと向かうのです。

この「デママー」について、旧約聖書学者であり共同訳聖書の翻訳に携わった高橋重幸師は、「『すんだ』と訳された原語は、『おだやか、つまり空気の激しい働き［大風］の停止した状態を示す（詩107・29、ヨブ4・16）』で静かな声を意味する」と解説しています。（オリエンス宗教研究所・布教）

神の言を預かった者たちがその使命の厳しさにくずおれてしまうとき、そこにひそやかになされていく「コル デママー ダッカー」…。イザヤはそれを、「まことにあなたはご自分を隠される神、イスラエルの神よ、あなたは救いを与えられる」と道破したのでした。

真実に神を探し求める者たちの魂に目をとめ、語りかけられる神…。救いの歴史の節目ごとに無数の証聖者たちをおこし、そこに連なっていくようにと召されている、私たち地上を旅する神の民…。

それも故なしとはしないのです。聖ヨハネは黙示録の中に、「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう」（黙3・20）と、予告しているからです。

「言」によって万物を創造され、聖なる息吹を全ての被造物の生命原理であるハートの中心に吹き入れておられる神…。特に洗礼によって神の子とされた私たちに対しては、いつもキリストの霊によって、内側から「たたいて」下さっているのです。

主イエスが天の国を「畑に隠された宝」にたとえ、また、「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」（ヨハネ4・14）と教えられたとき、その「畑」とは私たちの内面、つまり意識やハートのことであり、「宝」「泉」とは、その中心において沈黙（デママー）をまとって万物を活かしておられる、至善至美至愛・至福至聖至純・永遠の命・真理の霊・真の光と言、そして永遠の大能であられる至聖三位の霊の働きであったのです。

主の御使いが横になっているエリヤの枕もとに、「焼き石で焼いたパン菓子と水」を用意し、「起きて食べよ。この旅は長く、あなたには耐え難いからだ」と励ましたとき、それは直ちに、主イエスのご受難とご死去、そしてご復活を通して教会に伝わり実現されている聖体の秘跡と、その祭儀に重なってきます。

「中心への旅…祈りと瞑想による」…。それは私たちが「皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられる」まで続く、「主の霊の働きによることなのです」（２コリ３・18）。

カトリック聖歌305「み母マリア」は、この地上において助けを必要としている私たち信徒の真情を、偽りなくあらわしている聖母賛歌の一つです。その歌詞と律動のある旋律に込められている祈りをもって、この連載を終わりとします。

最後になりますが、これまでの連載の中でご不明なところやご感想などがございましたら、

beneberar@yahoo.co.jpのメールアドレスにご連絡ください。感謝のうちに。

訃　報

パウロ森一弘名誉司教　帰天

2023年９月２日、上部消化管出血のため都内の病院にて帰天。享年84歳。葬儀ミサは９月５日東京カテドラル聖マリア大聖堂にて執り行われた。

略　歴

1984年10月12日	神奈川県に生まれる
1967年３月11日	司祭叙階（ローマにて）
1977年８月	関口教会助任
1981年４月	〃　主任
1984年12月３日	東京教区補佐司教に任命
1985年２月23日	司教叙階
2000年５月13日	東京教区補佐司教退任
2023年９月２日	帰天

訃　報

大分教区第二代司教
ペトロ平山高明名誉司教　帰天

2023年７月15日、老衰のため帰天。享年99歳。葬儀ミサは７月18日カテドラル大分教会にて執り行われた。

略　歴

1924年３月31日	ソウルに生まれる
1957年３月	司祭叙階（福岡教区）
４月	福岡司教館勤務（学生指導担当）
1958年８月	大名町教会助任
1960年１月	フランス留学
1962年10月	帰国後、福岡司教館勤務 小倉教会助任・健軍教会主任
1969年11月	大分教区司教に任命
1970年１月	司教叙階
2000年６月	大分教区長を引退
2008年６月	ローマの日本のためのレデンプトーリス・マーテル神学院院長に任命
2017年６月	帰国後、明野司祭の家で過ごす

新潟教区 各評議会・委員会等の人事について

標記の委員会等の人事に異動がありましたので、あらためて本年７月１日現在の委員会メンバーをお知らせします。

司教諮問機関 他　2023年７月１日現在　※氏名（ゴシック）は新たな任命・選出（再任命は除く）

	任　期	委員長	委　員　／　メ　ン　バ　ー
司教顧問	５年（2021/03/01～）		眞壁良雄師、大瀧浩一師、石黒晃泰師、新立大輔師、スリ・ワルヨ師、伊能哲大師
地区長			**飯野耕太郎師**（秋田地区）、スリ・ワルヨ師（山形地区）、石黒晃泰師（新発田地区） 坂本耕太郎師（新潟地区）、伊藤幸史師（長岡地区）
司祭評議会	２年 （2025年春の評議会迄）		〈職務上〉眞壁良雄師（司教総代理）、**飯野耕太郎師**、スリ・ワルヨ師、石黒晃泰師、坂本耕太郎師、伊藤幸史師 〈司教による任命〉佐藤允広師、新立大輔師、大瀧浩一師 〈地区選出〉**マルチヌス・オマン師**、楊　成源師、田中丈夫師、**岡　秀太師**、伊能哲大師
宣教司牧評議会	２年（2023/04/01～ 2025/03/31）		〈職務上〉眞壁良雄師、大瀧浩一師、**飯野耕太郎師**、スリ・ワルヨ師、石黒晃泰師、坂本耕太郎師、伊藤幸史師 〈地区選出〉秋田：**鈴木　智氏**、**細矢　了氏**、山形：小林雅人氏、佐藤充子氏、 新発田：本田祐二氏、樋口　智氏、新潟：**甲斐啓一氏**、長岡：**吉原佳奈氏**、赤木啓子氏 〈女子奉献生活者〉秋保望氏、**工藤保代氏**、門戸美智氏、**内原わさ氏**、**窪田かづえ氏**、酒井裕子氏 〈司教による任命〉橘依理子氏、**渡辺フェ氏**、**石崎トゥエン氏**
経済問題諮問委員会	２年（2023/07/01～ 2025/06/30）	大瀧浩一師	眞壁良雄師、石崎友也氏（土崎）、柴田　博氏（山形）、中村　茂氏（青山）、吉田　剛氏（長岡）、渡辺明紀氏（新発田）
建設・共済委員会	３年（2021/07/01～ 2024/06/30迄）	大瀧浩一師	石黒晃泰師、田中丈夫師、細矢　了氏（土崎・地区推薦）、小林雅人氏（山形・地区推薦） 中林　務氏（新津・地区推薦）、佐藤仁人氏（青山・地区推薦）、本山咲子氏（糸魚川・地区推薦） 三木順治氏（新潟・司教による選任）、中村　茂氏（青山・司教による選任、事務局担当）

新潟教区 各委員会・担当者　2023年７月１日現在　※氏名（ゴシック）は新たな任命

委　員　会	委員長／代表者	委　員　／　メ　ン　バ　ー
難民移住移動者委員会	田中丈夫師	ホセ・ルイス・ロレンゾ師、**トゥ・ダン・フック師**、**グエン・タン・ヒ師**
広報委員会	ラウール・バラデス師	大瀧浩一師、グエン・タン・ヒ師、岩城忠秀氏（教区報担当・新潟）
青少年委員会	伊藤幸史師	坂本耕太郎師
正義と平和委員会	佐藤　勤師	
カリタス委員会	町田　正師	大瀧浩一師、岡　秀太師、野村みか氏（新潟）
養成委員会	大瀧浩一師	ラウール・バラデス師、スリ・ワルヨ師、坂口　淳氏（新潟）
ハラスメント対応委員会	大瀧浩一師	堂前洋一郎氏（青山）、運上司子氏（寺尾）、中村洋子氏（青山）、三崎恵子氏（新潟）
新潟ハバロフスク信徒交流会	町田　正師	ラウール・バラデス師

担当者

典礼担当者	髙橋　学師	
神学生養成担当者	大瀧浩一師	伊藤幸史師
召命担当者	坂本耕太郎師	伊藤幸史師
部落差別人権委員会教区担当者	佐藤　勤師	
教区信徒使徒職協議会担当司祭	坂本耕太郎師	
カトリック医師会	伊藤幸史師	
カトリック看護協会	眞壁良雄師	
カトリック幼保連盟	佐藤允広師	
シノドス教区担当者	大瀧浩一師	
未成年者保護担当者	**大瀧浩一師**	